

現代アートと仏教が融合

行橋出身の 九十九さん 11月、東長寺で個展

博多区

行橋市出身で、スペインと日本で創作活動に励む洋画家九十九伸一さん(五三)が十一月、福岡市博多区御供所町の東長寺で個展を開く。出展するのは聖霊を描いた横約八尺の大作「雲」。同寺所有の鎌倉、平安時代の仏像三体とともに展示し、現代アートと仏教の融合を目指す試みだ。



完成した大作の「雲」を前にする九十九さん



行橋のアトリエで十五日に完成した「雲」は、縦一・六二尺、横一・九五尺の用紙(F1330号)四枚に油絵で描かれ、漆黒の闇をグレー、流れる雲を白で表し、黄や赤でアクセントをつけた抽象画。九十九さん独特のフォルムであるU字形の聖

霊をとけ込ませ、時間の流れを表現した。

制作に約一カ月をかけ 東長寺近くの出身だった なども並ぶ。

た九十九さん。「この絵 ことがきつかけ。「空海 九十九さんは一九八〇年に九州産業大学が東長寺の仏像とどう融 さんが創建した古刹で九十九 〇年に九州産業大学 合するか。見たときに過 さんの作品を展示できれ 院を修了し渡欧。バルセ 去と現代という概念を消 ば面白い」と、同寺の藤 去と現代という概念を消 ば面白い」と、同寺の藤 せれば、普遍的なものが 田紫雲住職に打診したと トリエがあり、スペイン 見いだせるのでは」と期 ころ、快諾を得た。 国際現代美術展などに出 待している。 九十九さんも「雲」を 品している。年に一、二

今回の個展は、九十九 同寺での展示を想定して 回帰国して個展を開き、 さんが定期的に個展を開 制作した。個展は同寺多 行橋カトリック教会の いている東京・銀座のア 目的ホールで十一月六日 壁画、ステンドグラスの ートギャラリーの主宰者 から一週間の予定で、和 制作にも取り組んでい ・篠崎邦夫さん(セ)が、 紙で作った雲のオブジェ 。